

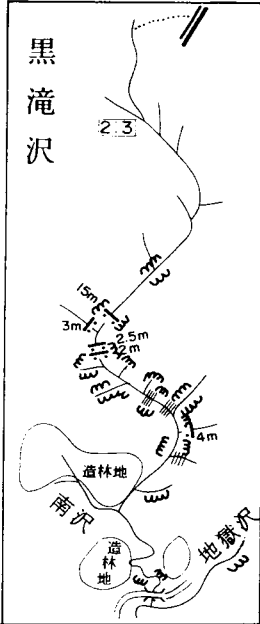
黒滝沢

一九八二年七月二日

ヤブこぎ一五分くらいで沢に出る。右岸にいくつもの炭焼き釜跡を見ながら下降する。

やがて沢が狭くなって、右岸から支沢が合流する。そこからしばらく下ると、一五匹の滝。兩岸は岩場となり、途中に倒木がひっかかっている。クライミングゲダウンにて下降。

この先、沢が右に曲がった所にも三匹程の滝をかける。岩質が変わった。種類はわからないが、黒っぽい色をしている。兩岸に



は岩場が次々に出てきて、所々にはナメがある。この岩場が終わる頃、造林地帯に出、やがて南沢が合流する。

沢が右、左へとつづら折れのように曲がる。やがて橋が見えてきた。今朝方通過した地獄沢との合流点のすぐそばを走る林道の橋である。下

ちよつと変わった樹木①

ハリブキ(ウコギ科)

山歩きや沢登りのとき、樹林の中の暗いところで、葉に触れて痛い思いをした人は、結構いるのではないかと思う。

一見すると草のように見えて、葉の先や幹に鋭いトゲがある。葉の直径が二〇〜三〇センチで、厚くて硬く、赤い実をつけているといえ、「ああ、あれか」と思い出す人もいると思う。あれはハリブキという立派な木本類で、草本類の仲間ではないのです。

このハリブキの仲間には、春井を染しむタラノキやヤツデなどがある。

(大西)

降終了一三時五五分。

(記)

「タイム」 下降点(一一:〇五)↓沢

南沢右俣

一九八二年八月一三日

南沢左俣の遡行を終了後、小尾根二つを越えて一〇時四五分、右俣の下降を開始する。ここまでく

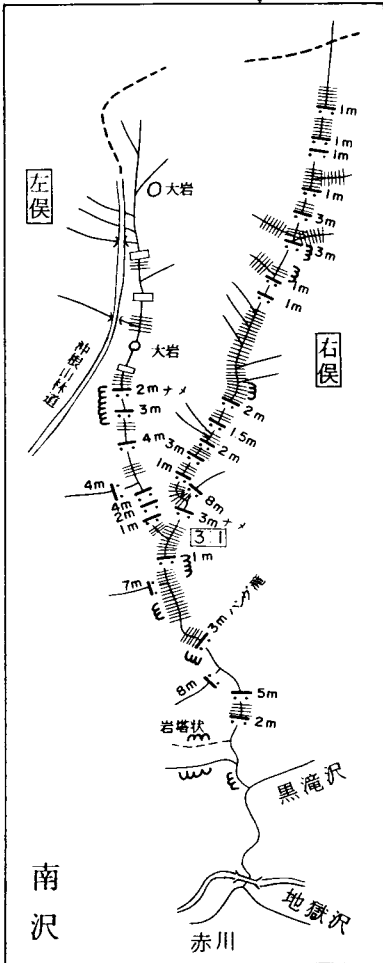
時にはたいした障害とならないが、下降する時にはなかなかやっかない

(記)

「タイム」 下降開始(一〇:四五)↓

るのに、まさか道があるとは思わなかったから、下降点を求めてどんどん下っていたら、しっかりと踏跡に出た。これなら左俣源頭の伐採地のあたりでよく探すんだったと思っただが、いたしかたない。

五分も下ると急傾斜のナメとなる。ナメというのは登る



(一一:二〇)↓南沢出合(一三:四五)↓地獄沢出合(一三:五五)

しろものである。所々ブッシュにつかまったり、慎重にクライミングダウンしたりしながら進む。

二〇分程下ってようやく傾斜がゆるやかとなり、歩きやすくなった。ナメは、小滝をまじえながら、左俣との出合までずっと続いていた。左俣出合到着一二時ジャスト。